

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	さいたま市総合振興計画審議会第2部会(第3回)
2 会議の開催日時	平成25年5月24日(金) 14時00分から16時00分まで
3 会議の開催場所	ときわ会館5階 中ホール
4 出席者名	審議会委員：渋谷治美部会長、大久保秀子副部会長、浅輪田鶴子委員、阿部理一郎委員、新井森夫委員、鶴見清一委員、徳山晴美委員、根本稔巳委員、林一夫委員、宮本直美委員、  事務局：江口明男、松井雅之、小島豪彦、松尾真介、富田昌洋、猪狩文康、南友和、鈴木慶一
5 議題及び公開又は非公開の別	議題 ・第1回部会の主な意見について ・分野別計画(素案)について(健康・福祉) ・その他 公開又は非公開の別 公開
6 非公開の理由	—
7 傍聴者の数	1人
8 審議した内容	別紙、議事概要のとおり
9 問合せ先	政策局政策企画部企画調整課 電話番号 048-829-1035
10 その他	

## さいたま市総合振興計画審議会第2部会（第3回）議事概要

第1回部会の主な意見について確認した後、分野別計画（素案）のうち、健康・福祉の分野について審議しました。

### 議題（1）第1回部会の主な意見について

事務局から、資料1に基づき、第1回部会の主な意見について説明があり、確認しました。

### 議題（2）分野別計画（素案）について（健康・福祉）

事務局から、資料2に基づき、次のことについて説明があり、施策ごとに審議しました。

- 施策1：子育てしやすい都市の実現
- 施策2：高齢となっても暮らしやすい都市の実現
- 施策3：誰もが地域の中で自分らしく暮らせる都市の実現
- 施策4：心身ともに健康で活力に満ちた社会の創出
- （仮称）皆さんも取り組んでみませんか？

### 【主な意見】

○施策1：子育てしやすい都市の実現について

〈施策展開〉

- ・横浜市は待機児童ゼロを実現したとのことである。「子育てしやすい都市の実現」と掲げるからには、子どもを預けながら安心して働くことができるシステムが必要である。
- ・横浜市との比較分析などにより、しっかりと待機児童対策を推進すべきである。未来の市民に対するサービスの充実は、私たちの責務である。
- ・工程表を示すなど、市の目標と取組をわかりやすく伝える努力が必要ではないだろうか。ニーズに沿う保育所を検索するシステムなどの仕組みがあってもよい。
- ・市民が保育所を探すときに、空いている保育所を案内するコンシェルジュを置いてもよい。
- ・保育園に関しては、母親が就業している、いないに関わらず希望があれば入園できる仕組みがあればベストではないだろうか。
- ・人口の増加に保育園の整備が追いつかない地域がみられる。両者のマッチングとともに、今後の保育園整備計画などをいち早く市民に周知する必要がある。
- ・待機児童がいる一方で、ナーサリールームなどは有料広告を出して園児を募集している。行政はそのような現状を把握しているべきである。
- ・住みやすいまち・さいたま市を目指すなら、待機児童の問題に重点を置いて、子どもを持つ若い人にとって魅力的な環境づくりを進めるべきである。

- ・保育士・幼稚園教諭について、資格を有していても働いていない人材の発掘も含めて、人材の育成についてもっと計画の中に記述すべきではないか。
- ・放課後児童クラブについては、単に児童を預かるだけでなく何をやっているかが大切であり、しつけ・教育といった指導を充実できないかと感じている。

#### ○施策2：高齢となっても暮らしやすい都市の実現について

##### 〈目指す方向性〉

- ・「住み慣れた地域で」とあるが、他市から入ってくる人もいるので、「高齢者に優しい」など表現を工夫すべきではないか。

##### 〈成果目標〉

- ・成果目標から見えてくる高齢者像に偏りがあるのではないか。高齢の方々の多様な生活像は必要ではないか。

##### 〈施策展開〉

- ・「高齢者が活躍できる場や機会の確保」とあるが、具体的な取組が見えない。高齢者が活躍できる場づくりは、今後、非常に重要となってくる。
- ・退職して地域に戻ってきた男性の地域参画、社会参画を促していくことが重要である。イベントなどによるきっかけづくりが大切ではないか。
- ・無理に地域や社会への参画を促すのではなく、やりたい人・できる人はやりましょう、ということでも良いと思う。
- ・子どものうちから、地域に参画していくことが大切である。ノーマライゼーション意識や、男女共同参画意識の醸成にも効果があるだろう。
- ・地域の公園を拠点として、子どもと高齢者の心の交流が促進できないか。子どもや親世代の居場所にもなるし、高齢者の居場所ともなる。
- ・「高齢者が住み慣れた」はやや古いキーワードである。「住みやすさ」というものがあつた方が、他の地域から来る人にとって垣根の低いまちになるのではないか。
- ・子育て施策と同様に、介護職など資格を有していても働いていない人材の発掘も含めて、人材の育成についてもっと計画の中に記述すべきではないか。

#### ○施策3：誰もが地域の中で自分らしく暮らせる都市の実現について

##### 〈成果目標〉

- ・成果指標に疑問を感じる。施設入所者数を減らしたいものと理解できるが、その一方で一般就労数がわずかしか増えていない。
- ・退所からいきなり一般就労というのはギャップが大きいので、身近な地域の中に働く場が必要なのではないだろうか。

##### 〈施策展開〉

- ・ケアホームやグループホームなど、障害者が地域で暮らすための施設整備については、行政から地域への働きかけがもっとあつてよい。

- ・義務教育における特別支援学級について、職員数の不足などにより十分な教育環境を得られていないと感じている。発達障害児への対応については、より充実した対応をすべきである。

#### ○施策4：心身ともに健康で活力に満ちた社会の創出について

##### 〈現状と課題〉

- ・一般病床数と医師の数が少ない現状はこの10年変わらない。埼玉県も考えているとは思いますが、市としても何か考えないと解消されないのではないかと。
- ・確かに病床数は少ないが、市民にサービスができていないとは思わない。本市は都内に近いという地理的特殊性もある。
- ・「自殺死亡者数が～特に15歳から44歳では死因別死亡順位の第1位」とあるが、問題・課題と認識しているならば、対応する施策を掲げるべきである。
- ・「社会からの孤立化を防ぐため、家庭や学校、職場など～連携」とあるが、登校できない子どもなど、きめ細かな対応が必要である。

##### 〈成果目標〉

- ・かかりつけ医の有無を重視すべきだと思う。介護などの最初の入口としても、頼りになる医師が身近にいる意義は大きい。

##### 〈施策展開〉

- ・「多様化する保健福祉ニーズ」とあるが、現状は様々であるので、表現に工夫が必要ではないか。「多様化」だけでは平板である。
- ・「保健、医療、福祉のサービスを総合的に提供する体制」とあるが、サービスを利用する市民としては分かりにくいと感じることがある。行政は、情報を市民に分かりやすく伝える努力をすべきである。
- ・家庭の事情から子どもの食事を給食に頼っているケースがある。食育については十分に取組むべき。
- ・安心して暮らせる地域医療体制の充実に向け、今後は救急医療、がん医療、認知症対策が重要な課題となる。
- ・「各医療機関の機能連携と機能分担」を明確にすることが大事であり、市民や介護職員と医療との連携が大切となる。
- ・病床数が足りない現状は課題であるが、自宅で親を看取った経験から、訪問介護と訪問医療は本当にありがたいと感じる。今後は、在宅医療と看護がもっと身近になっていけば良いと思う。
- ・小児医療の充実の子育てにとって大事なことであり、明記すべきである。

#### 議題（3）その他

事務局から、部会の第4回開催日程について連絡がありました。

○6月7日（金）午後1時30分から さいたま市役所第二別館 第1会議室